

(別紙様式 = 小学校用)

都道府県名

滋賀県

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	西浅井町立永原小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	11
児童数	19	27	23	26	26	18	2	141	

研究の概要

1. 研究主題

わかる喜びを味わい、確かな学力を身につけた子どもの育成
～算数科を窓口とした確かな学びをもとめて～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

実施学年：全学年

教 科：算数科(児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため)

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ わかる喜びを味わい、確かな学力を身につけた子どもの育成 ～算数科を窓口とした確かな学びをもとめて～</p> <p>研究の見通し 基礎・基本の確実な定着と個に応じた指導体制・指導方法を工夫改善し、きめ細かな指導を実践することによって、児童が自ら学び、自ら考える力を培い、確かな学力を身に付けることができる。</p> <p>研究の内容・方法 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための学習教材の開発 ・主体的に学習に取り組める個に応じた教材の開発 ・反復練習による基礎・基本の定着と個に応じた補充的な学習 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善 ・選択制によるコース学習、理解の速度に応じた習熟度別学習 ・複数の教員による、TT、少人数学習 児童一人一人の学力の評価を生かした指導の改善 ・指導と評価の一体化 ・学力や意識の実態調査と変容の把握</p>
--------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

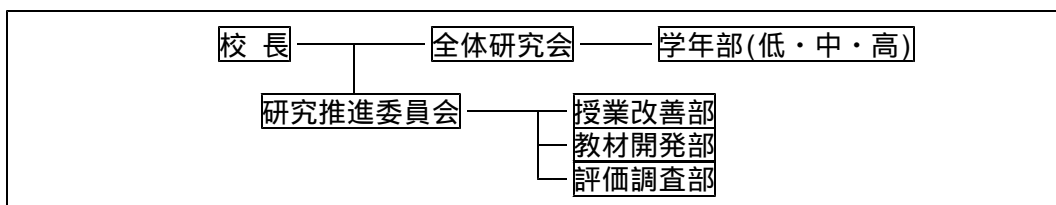
平成16年度	<p>テーマ わかる喜びを味わい、確かな学力を身につけた子どもの育成 ～算数科を窓口とした確かな学びをもとめて～</p> <p>研究の見通し</p>
--------	------------------------------------------------------------------------------------

児童一人一人の実態を把握し、自ら進んで取り組むことができる教材を工夫するとともに、個に応じた指導体制・指導方法を工夫改善することによって、どの子にもわかったという実感を味わわせることができ、それが確かな学力の向上につながっていく。

研究の内容・方法

- 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための学習教材の開発
- ・発展的な学習の内容と学習教材の開発
- ・基礎・基本の定着と学力補充的な学習教材の工夫
- 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善
- ・単元における習熟度別学習の計画的な位置づけ
- ・算数的活動を積極的に取り入れた授業の改善
- 児童一人一人の学力の評価を生かした指導の改善
- ・指導と評価の一体化を図るための評価方法
- ・学力や意識の実態調査と変容の把握

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

児童の学力向上のためには、一人一人が目的意識をもって主体的に学習に取り組むことが大切である。そこで児童が意欲的に問題解決に取り組む算数的活動を意識的に取り入れた授業の改善を行ってきた。とくに導入場面において、具体物を操作する活動、作業・体験的活動、探求的活動を意図的に取り入れることにより、解決に対する目的意識を持続させることができた。

個に応じた指導のための教材開発や、習熟度別の小グループによる個に応じた指導の実施等により、児童一人一人が課題意識をもって学習に取り組むようになり、学習意欲を次第に向上させることができてきた。

少人数グループによる個に応じた指導や、子どもの自己評価や指導者の評価を事後の指導に生かすように努めることによって、一人一人の児童の学習の意欲や理解度に配慮し、活動の機会を与えたり、自信をもたせたりすることができてきた。また、児童に発表の機会を多く与え、全体の場で分かりやすく説明させることにより、思考力や判断力、さらには表現力の向上にもつながってきたのではないと思われる。

習熟度別のコース学習については、何度か機会を持つことにより、コースごとの学習方法や程度の違いを子ども自身で判断して選択できるようになってきた。

基礎学力向上のためのチャレンジタイムでは、計算のスキルや練習問題、漢字練習や小テストなどに取り組んできた。例えば、2位数÷1位数の余りのある問題を時間を決めて何度か繰り返すと、ほとんどの児童に解答数や正答数の向上が見られた。

2. 今後の課題

成果を客観的に判断するための習熟度別学習に関する指導のアンケート調査や算数科テスト観点別得点の集計、比較方法等について研究を進めるとともに、必要なデータを蓄積していく必要がある。

発展的な学習など、自力解決を目指す問題解決能力を育成するための教材開発を進める必要がある。

基礎的な学力の定着を図るチャレンジタイムの進め方や家庭での自主学習への取り組みについて共通理解を図り、継続的かつ効果的な取り組みを進める必要がある。

学力等把握のための学校としての取組

教研式標準学力検査(NRT)による前学年の学力調査
平成15年6月上旬実施(2～6年対象)

算数科「数と計算」領域の基礎学力調査テスト(町学力調査部会編)
平成16年1月中旬実施(全学年対象)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

学力向上フロンティア事業地区別協議会
日時 平成15年11月13日木曜日
場所 西浅井町立永原小学校
テーマ わかる喜びを味わい、確かな学力を身につけた子どもの育成
～算数科を窓口とした確かな学びをもとめて～
対象 第5地区フロンティアスクール指定校及び郡内の小学校

研究の成果を校内研究紀要にまとめ、関係諸機関に配布予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 TTによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無